5.2 コージェネが貢献する SDGs

事業者の皆さまが選定したSDGsのゴール、ターゲットに対し、コージェネは、前項に記した価値を通じ、貢献することができます。コージェネの各提供価値が、主としてSDGsのどのゴール・ターゲットに貢献しうるか、以下に例示しました。（ここに記したのはあくまで一般的な例であり、実際には事業の性質により判断すべきものです。）

対象となるSDGs		貢献するコージェネ価値
ゴール	ターゲット	
 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	7.1　2030年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。	 電力系統の安定化に貢献、かつ地震や停電に強いエネルギー供給システムの構築
	7.2　2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大。	 再生可能エネルギーを燃料としたコージェネの活用及び自然変動電源に対する調整力としての活用
	7.3　2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。	 オンサイト設置熱電併給と再生可能エネルギー利用によるエネルギー消費量削減
	7.b　2030年までに、各々の支援プログラムに沿って開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、内陸開発途上国の全ての人々に現代的で持続可能なエネルギーサービスを供給できるよう、インフラ拡大と技術向上を行う。	 海外のエネルギーインフラ構築における活用
 働きがいも経済成長も	8.2　高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。	 環境や防災に配慮した建物や街区の不動産価値向上と、それに伴う高付加価値産業の集積や事業者間交流を通じたイノベーション創出
	8.3　生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。	 環境や防災に配慮した建物や街区の不動産価値向上 地域のエネルギー産業創出による地域経済の発展
 産業と技術革新の基盤をつくろう	9.1　全ての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。	 電力系統の安定化に貢献、かつ地震や停電に強いエネルギー供給システムの構築
	9.4　2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。	 省エネルギーなインフラの構築

5 コージェネ導入を通じたSDGsへの貢献

対象となるSDGs		貢献するコージェネ価値
ゴール	ターゲット	
産業と技術革新の基盤をつくろう	9.a　アフリカ諸国、後発開発途上国、内陸開発途上国及び小島嶼開発途上国への金融・テクノロジー・技術の支援強化を通じて、開発途上国における持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラ開発を促進する。	海外のエネルギーインフラ構築で活用
住み続けられるまちづくりを	11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。	低炭素で安心なまちづくりや、コンパクトシティ構築に貢献
	11.b　2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030※に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。	電力系統の安定化に貢献、かつ地震や停電に強いエネルギー供給システムを構築
つくる責任つかう責任	12.2　2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。	再生可能エネルギーを燃料にコージェネを活用
	12.5　2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	廃棄物を燃料としたコージェネを活用
気候変動に具体的な対策を	13.1　全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。	地震や停電に強いエネルギー供給システムの構築
	13.2 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。	オンサイト熱電併給と再生可能エネルギー利用による化石燃料使用量削減
陸の豊かさも守ろう	15.2　2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。	林業の副産物を燃料としたコージェネの活用
パートナーシップで目標を達成しよう	17.17　さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。	自治体計画等に反映させ、地元企業や居住者も協力することで、まち全体の低炭素化や地域経済発展に貢献

※国連防災世界会議（2016年3月仙台開催）において採択された、防災のために取り組むべき事項。
災害リスクの理解、ガバナンス強化、リスク軽減への投資、復旧・復興へ向けた活動等

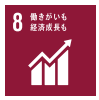
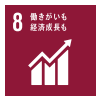
これまでのまとめとして、「5.1　コージェネの提供価値」で示した表につき、SDGsのゴールとの対応を付記したものを以下に示します。

■コージェネの提供価値とSDGsゴールとの対比

NO	提供価値	概要	対応するSDGsゴール
①	**エネルギーの低炭素化** 低炭素	発電と同時に発生する熱をオンサイトで活用することで、エネルギーの低炭素化を実現します。	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 13 気候変動に具体的な対策を
②	**再生可能エネルギーの導入促進** 再生可能	再生可能エネルギーを燃料としたコージェネや、再生可能熱とコージェネ排熱の融合により、再生可能エネルギー導入を促進します。	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう
③	**電力系統への貢献** 系統貢献	コージェネは需要地に設置されるため、送配電網の投資を抑制できます。また、電力需給に応じて稼働できるため電力ピーク削減、系統設備の投資抑制、再生可能エネルギーの変動調整に寄与します。	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
④	**強靭性（レジリエンス）の向上** 強靱化	耐震性のある中圧供給の都市ガスの利用、あるいは停電対応機能により、防災に強いシステムを構築し、施設の防災対応や不動産価値向上を実現します。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を

5 コージェネ導入を通じたSDGsへの貢献

■コージェネの提供価値とSDGsゴールとの対比

NO	提供価値	概要	対応するSDGsゴール
⑤	**都市開発への貢献** 都市開発	都市にコージェネを導入することで、低炭素で安全なまちづくりを実現し、国際的な都市間競争にも寄与します。	 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 働きがいも経済成長も 産業と技術革新の基盤をつくろう 住み続けられるまちづくりを 気候変動に具体的な対策を パートナーシップで目標を達成しよう
⑥	**地方創生への貢献** 地方創生	地域に存する資源をエネルギーに転換することで新たな産業を創出し、資金の域内循環や地元の雇用確保を促進、地方経済の発展に寄与します。また、地方都市のコンパクトシティへの転換に貢献します。	 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  働きがいも経済成長も 産業と技術革新の基盤をつくろう 住み続けられるまちづくりを 気候変動に具体的な対策を 陸の豊かさも守ろう パートナーシップで目標を達成しよう
⑦	**エネルギーを通じた国際協力の展開** 海外インフラ	今後、旺盛なエネルギー需要が見込まれるアジアを中心に、LNGの転売や基地構築を支援するとともに、利用分野でも協力することにより、良好な国際関係維持を果たします。	 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  働きがいも経済成長も 産業と技術革新の基盤をつくろう 住み続けられるまちづくりを 気候変動に具体的な対策を パートナーシップで目標を達成しよう